

# メトロ・ワールド・チャイルド 第24回オペレーション・ホリデー・ホープ！

クリスマスメッセージの週のメトロの教会学校に参加した子ども全員にプレゼントを渡す働きです  
 スポンサーのいない子どもたちもプレゼントを受け取ることができます

今年のクリスマスも、メトロ最大のプロジェクトである「オペレーション・ホリデー・ホープ (OHH)」を通じて何万人という子どもたちに希望を与えていただくことができます。

昨年は世界各地の日曜学校で、圧倒的な反響を得ることができました。ご協力のお陰で、26万人を超える子どもたちとその家族が福音に触れることができたのです！

日曜学校に来た子どもたちは全員、特別なクリスマスプレゼントを受け取って帰りました。中身はクリスマスのご馳走だったり、お菓子が詰まった靴下だったり、ラッピングされた市販品だったり、暖かな防寒靴と手編みの靴下だったり、地域に合わせたものでした。これらのプレゼントはすべて、「どんなにつらい境遇にあっても、世界のどこかに自分を心配して祈ってくれている人がいる」という事実を子どもたちが思い出せる、愛の象徴です。



OHHに賛同してくださったあなたは、子どもたちのその後の人生においても大きな意味を持つ何かを家に持ち帰る手助けをしたこととなります。それはキリストを知ること、そして、よりよい未来のためにキリストが与えてくださる希望です。私たちが接している子どもたちの多くは非常に貧しく、アメリカ以外の子どもの貧しさは桁違いです。

孤児も大勢います。「欠乏」とは何かを、嫌というほど知っています…愛の欠乏、希望の欠乏…

今年も、あなたのご支援のお陰でさらに多くの魂に働きかけることができるはず。皆、キリストの誕生の事実とイエス様が与えてくださる永遠の希望を知る必要があるのです。



詳細は、同封のチラシ「アメリカ・フィリピン クリスマスプレゼント&オペレーション・ホリデー・ホープ」をご覧ください

## オペレーション・ホリデー・ホープ クリスマスプレゼント募集中

すぐに同封のチラシをご覧ください！

### ラブ・ボックス！

10月10日お申し込み〆切です  
 先月同封のチラシをご覧ください！

### 今月号の目次

- P2…クリスマスプレゼント&OHH募集/祈りの輪/今月のポジション
- P3~4…メトロ・フィリピン訪問のご感想/フィリピン給食支援募集
- P5…ラブボックスお礼/ビル師からのメッセージ
- P6…日本事務所からのお知らせ

# クリスマスプレゼント& オペレーション・ホリデー・ホープ

(OHH)

## クリスマスプレゼント

ご自分のサポートしているアメリカ、またはフィリピンの子どもにクリスマスプレゼントを贈ります

## アメリカ・フィリピン・ケニアへのOHH

クリスマスの週にメトロの教会学校に参加した子ども全員にプレゼントを渡します

1口 1,500 円でおひとり何口でもお申し込みいただけます  
同封のチラシをご覧ください、お申し込みください

## 締め切り

\* フィリピンへのクリスマスプレゼント

11月10日(日)

\* アメリカへのクリスマスプレゼント

および、各国へのOHH 11月27日(水)



## 祈りの輪



メトロのパートナーであるあなたは、祈りと支援を通じて活動の任務を担ってくれる貴重な存在です。どうか共に祈ってください…

- 世界中で福音を語るビル師に神様が無限の力を与え、その語る言葉に油を注がれ、守ってくださいますように
- メトロ日曜学校に集うすべての子どもたちのために、そしてスタッフが守られますように
- 神様が用意してくださっているご計画をすべて成し遂げられるよう、力を与えていただきますように

アーメン！感謝します！

## 2019年10月 今月のデポジション by ビル・ウィルソン

### 「逃げない限り 敗北はない」



教会学校の送迎バスを運転する若き日のビル・ウィルソン(ニューヨーク・ブルックリン)

「実のところ、失敗や敗北を経験されたことは？」その人は私に問いかけました。「これまでに挫折を経験されたことはないのですか？」私は週末ごとにあちこちの教会に出向き、福音を語ると同時にメトロの活動を介绍していますので、多くの出会いがあります。やりとりのひとつひとつを覚えていられるはずがありません。しかし、その男性の問いかけは聞き流すことができず、じっくり考えたのです。真剣に。

私は、ここニューヨーク・ブルックリンに来てからの日々を思い起こしました。死んでいった友や子どもたち。パンも買えず空腹に苦しんだ日々。ネズミが出る古い倉庫で凍えながら眠った夜。日曜学校の送迎バスのガソリン代もなかった日々。そして、私に「そんな大都会でやっていけるはずがない」と言った人たち…

そんなあれこれの思い出しながら、私は気づいたのです。勝者と敗者の違いは実に単純なことなのだ、と。難しい話ではありません。勝利というのは多くの場合、「逃げない」ことに尽きるのです。

目頭が熱くなるのを覚えながら、私は正面からその男性に向き合って答えました。「ありません。」「敗北や挫折は一切ありません。私が今、ここにいるのがその証拠です。敗北とはすなわち、この町を去ることですから。」その人はうなずきました。あなたが、現在の居場所こそ自分がいるべき拠点であると確信するならば、そこから動いてはなりません。勝利に必要なのは、妥協せず足場を確立することだけだからです。勝利は既にあなたのものです。そして、神からの励ましを受け、神があなたに望む拠点到堅く立つならば、勝利はこの先も常にあなたのものなのです。

あなたが今日、神が望む場所にいるならば、とにかく動いてはなりません。足場を固めてください。今日、そこにとどまる。そうすれば勝利は今日、あなたのものになります。明日もとどまる。そうすれば勝利は明日もあなたのものです。堅く立ち、とどまり続けることです。週末まで、月末まで、年末まで—それが、勝利への道です。

身ひとつでブルックリンにやってきて活動を始めて40年になります。当時の私にあったのは、神から与えられた信念と、「神ご自身が始められたことは必ず成し遂げてくださる」という信仰だけでした。そして、みこころならば、私は今後もここにとどまり続け決して動かないでしょう。あなたの居場所はどこですか？

ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、

神のすべての武具をとりなさい。—エペソ人への手紙第6章13節

心をこめて

創業者・主任牧師 ビル・ウィルソン

# メトロ・フィリピン訪問のご感想

8月にメトロ・フィリピンを訪問された田中ひかり様のご感想をお届けします。

この度、8月13日(火)から18日(日)までメトロ・フィリピンを訪問しました。サポートしている3人の子供に会うことができ、道端教会学校の準備やワーカーのトレーニングにも参加させていただきました。

## 道端教会学校の規模の大きさに驚く

私が訪問した時はちょうど道端教会学校はお休みでしたが、多い所だと一箇所で1000人近くの子供が集まるそうです。フィリピンではあまりに子供が多いので、日本のように丸1日学校に通うシステムではありません。「朝・昼・夕」と別れていて、朝に授業のある子はお昼には帰宅するので、平日の昼間でも道に子供が溢れていました。まさに子供への道端教会学校がぴったりの環境だと感じました。

## 里子と会って

子供たちと買い物をしたり、ファストフード店に行ったり、楽しいひと時を過ごしながら、こんなにも素敵な出会いを与えて下さった神様に感謝しました。本当にフィリピンに新しい親戚ができたような、そんな温かい交わりの時でした。そして、あるお母さんが別れ際にこう言って下さいました。「今日の出会いは神様がくれたものだと思う。今まで何度か子供と一緒に教会学校に行って福音は聞いていたけど、今日、イエス様を私の救い主として受け入れる決心をします」これを聞いて泣いてしまったのは言うまでもありません(笑)

このように道端教会学校の働きは子供にだけでなく、子供を通してその家族にも広がっています。実際に私が会ったお母さんたちは、道端教会学校を通じて、地域教会が開いている聖書勉強会に参加している方もいました。

## 信仰の継承、弟子訓練

メトロの働きが広がり続けている背景には、地域教会との協力があること、また道端教会学校で救われた子供が成長し、働き人(ワーカー)になっている事を知りました。そのトレーニングに参加しました。

その日は、10代半ば~後半の若者が20名ほど集まっていました。メトロのスタッフが研修するのかと思いきや、先輩ワーカーが後輩たちに教えていました。ハンナさん曰く、ここ数年で若者を訓練し、彼ら自身で次世代を育てていけるようなシステムにしたそうです。実際、その10代のワーカーたちはとても頼もしく、生き生きと研修していました。



トレーニングの様子

なぜ遊び盛りの高校生が貴重な休みを使ってその研修に来るのでしょうか？それは彼ら自身が道端教会学校で素晴らしい福音を手にし、それを自分と同じような境遇の子供に伝えたいと願っているからに他なりません。本当に美しい信仰の継承だと思いました。そして彼らの姿を見ながら、私は自分の事だけで一杯いっぱいになってしまっていないか、神様から問われた気がしました。



## スラム街を訪れて

このトレーニングが行われたのは、最貧困地区として有名なトンドでした。小さい子供がゴミを集めて計量している姿、ゴミだらけのボロボロの小屋に大家族が住んでいる様子を目の当たりにしました。でもそこで一番驚いたことは、そこに住む人たちが、メトロのスタッフの姿を見るやいなや走り寄ってきた事でした。

道を歩いていると色んな人に声をかけられて中々進めないほどです。これを見て、メトロの働きの一つである家庭訪問は、彼らの「隣人」になることなんだと思いました。これは綺麗ごとではできません。実際、その働きをする中で葛藤があることも聞きました。でもそれと同時に、彼らとの交わりの中に素晴らしい喜びや祝福があることも見聞きしました。



フィリピンのスラム街



## 主にあってひとつ

この旅で1番感じたこと、それは「福音の力と輝きはどんな環境でも変わらない」ということです。置かれている境遇が全く違っても、主を共に礼拝するとき、そこに何の壁も感じません。フィリピンで主にある兄弟姉妹たちと出会い、語り合えたことは、私にとって本当に大きな励ましになりました。

このような素晴らしい機会を与えて下さったメトロ・フィリピンの方々、日本事務局の方々にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。これからもメトロの働きを通して、主の栄光が益々表されるよう願ってやみません。

# 温かな食事が欲しかったのです

あなたのお陰で 食事以上の何かが

フィリピンのデルパン地区で、ジェーンと妹のマリーは長いことメトロの道ばた教会学校に通い続けています。教会学校のチラシを配るお手伝いや、会場設営の準備のお手伝いまでしてくれます。この子たちの楽しみはもちろん賛美や聖書の学びですが、実は同様に、日曜学校の後に皆でとる食事を楽しみのひとつなのです。

ジェーンたちの母親はシングルマザーで、家計は大変苦しいものです。ある朝、家には一杯のコーヒーしかなく、これを分け合って朝食とするしかありませんでした。子どもにはよくあることですが、この2人も例にもれずカップを奪い合っけんかになり、結局コーヒーは全部こぼれて何も口にできなくなってしまいました。その時、ジェーンはメトロスタッフのアナリザがその地域を回っているのを見つけたのです。「アナリザ！」ジェーンは駆け寄って挨拶をするやいなや興奮して聞きました。「今日は日曜学校、ある？」

「うん」アナリザの答えはこうでした。「今日はないわ。今日は祝日だから日曜学校はお休み。」がっかりしたジェーンは、アナリザにことの顛末を話しました。また、ジェーンもマリーもひどくお腹が空いているということも。

実はアナリザも同じような子ども時代を過ごした経験があるのです。まるで過去の自分を見るようで、家族全員、食べるものが何もなく時代のひもじさを思い出しました。ジェーンたちと同様に、アナリザもかつて日曜学校に通っており、いつも神様のお話を聞きました。でも、アナリザにとって神様の愛を最も感じるのは、日曜学校で配られる食事だったのです。自分の子ども時代を思い出したアナリザは、ジェーンとマリーにも、自分と同じように神様の愛を感じて欲しいと思いました。その日、アナリザは食料品を買って、自分の昔話をしながらジェーンたちに渡しました。その数か月後、思いやり溢れるスポンサーがマリーを支援することになり、今でも家族が食べるのに困らない援助をしてくれています。神様がこんな風に愛を示してくださることに、家族全員感謝しています！



## フィリピンの給食支援



現地の教会と協力し、メトロの教会学校を開催したあと、参加している子どもたちに食事を提供しています。毎週各地でこの働きを続けるには、多くの必要があります。メトロの関わる子どもたちはフィリピンに2万人以上いるのです。ご賛同いただけます方に、ぜひご支援をお願いします。

ご支援方法：「フィリピンの給食支援」として、日本事務局にお申し込みください。

1口：10,000円（50人の子どもに1日分の食事を提供できます）おひとり何口でもご支援いただけます  
1回だけでも、継続的にもご支援いただけます。

TEL 03-3561-0174, email: metrojapan@mission.or.jp

# メトロの子どもたちをご支援くださり ありがとうございます

この感謝祭の季節、通常の支援に加えて特別に贈り物をしてくださるスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

程度の差こそありますが、子どもたちの多くは、飢えや貧困、搾取、虐待、様々な面での不足など、本来、子どもが直面してはならない困難を抱えています。メトロの里親支援制度で築かれる子どもとスポンサーとの個人的な関係は、子どもがよりよい未来を歩んでいくための、みことばに基づく確かな基本を作っていくために重要な役割を果たします。



この世界にとって、あなたはただの一人の人間かもしれない。でも、ある一人の人間にとって、あなたは世界そのものかもしれないのです。

—ビル・ウィルソン

予告

## 11月号でケニア学用品支援を募集します！

ケニアの学校の新年度は1月です。学校で勉強するためのノートや文房具、制服、靴などを支援するキャンペーンを次号でお知らせします。



### ビル師からのメッセージ

## 「あなたがたで、あの人たちにあげなさい…何か感謝できるものを。」



**献**身的にメトロに協力してくださっている方々でも、冬でも暖房のない荒れ果てた汚い部屋に住み、また、唯一のまともな食事が学校給食だという子どもと出会う機会はまずありません。しかし、空腹の苦しみは子どもにとって厳しい現実です。

あなたもご存じのように、私はその厳しさを身をもって知っています。

楽しい休暇の季節になっても自分には何の変化もない…そう感じると現実にはさらに厳しさを増します。絶望感はさらに募ります。しかし、いつも言うように、子どもたちは絶望しているわけではなく、単に希望が持てないだけなのです。

ですから、こうしてお伝えする必要を理解して、さらに行動を起こしてくださるあなたのような友人や同志の存在をとてもありがたく思います。感謝祭やクリスマスに向けて活動を行おうとする今、本当に感謝しています。ニューヨークで、また世界各国で、子どもたちの人生を変えるために私たちとともに最前線で必要を満たすための働きに加ってくださり、ありがとうございます。

空腹の人たちに食事を施す…そこには霊的な指針があります。イエスがこれを行ったのです。食事が必要な群衆を目的

前にして、イエスは弟子たちに「彼らに何か食べるものをあげなさい」と言われたのでした。マタイの福音書第14章14～20節に記されたこの奇跡は、唯一、4つの福音書すべてに共通する記録です。簡単に言えば、私たちには今、これにならう対応が求められているのです。そしてあなたのお陰で、私たちにはそれが可能なのです！

あなたの祈りがなければ活動はできません。そして、あなたの献げ物があってこそ、この季節に「ラブボックス」という活動を通じて、何千人ものスラム街の子どもとその家族に、食料品と併せて希望を届けることができるのです。

今年も感謝祭を迎えようとする今、あなたにお伝えしたいことがあります。あなたがいないければ、あなたの支援がなければ、あなたの励ましと祈りがなければ、私は40年間このニューヨークに留まって活動を続けることはできませんでした。これはまさに事実です！言葉で表すことはできませんが、私の心の声を感じていただければ幸いです。素敵な感謝祭をお過ごしください。祝福をお祈りします。

心を込めて  
ビル ウィルソン

# 日本事務所からの重要なお知らせとお願い

## インターン募集！

来年 2020 年度のインターンシップの日程が決まりました。ご興味をお持ちの方は、ぜひお早めに資料をご請求の上、準備を始めてください。

ご自分にとっても、所属する教会にとっても大きな収穫を得られるものです。

### ●アメリカ・ニューヨーク本部での研修

「春期」2020年3月12日(火)～7月31日(金)

「1年コース」2020年3月12日～12月16日

### ●フィリピン・マニラでの研修

「春期」2020年2月4日(火)～5月21日(木)

英語が得意でない方は、フィリピンがお勧めですが、日常会話程度の英語力と度胸が必要です。

## 手紙の翻訳について

お送りしています子どもからの手紙は、本部から送られてきたものに間違いがないかチェックをした上で皆様にお送りしています。

現在、基本的には個人からの手紙やカードに翻訳をつけておりません。ご希望の方は、写メや FAX などでご希望の言語(日本語と韓国語)と共にお知らせいただきましたら、翻訳してお送りします。本来は、すべて翻訳してお送りすべきところですが、メトロの働きはすべてボランティアの協力で行っておりますので、手が行き届かず申し訳ございません。

毎回翻訳をご希望の場合もお知らせください。最初から翻訳したものを同封してお送りします。日本語と韓国語のみご対応できます。

## ！ スポンサー代金改定

メトロ本部では、世界中の物価の上昇に対応するために、子どものスポンサー代金を今年からひと月 5,000 円に変更しています。

たくさんの皆様が、スポンサー代金の引き上げのご連絡をくださいましたことを心から感謝申し上げます。

もし、まだご検討いただいていない場合は、ぜひご検討の上、お知らせください。

ご連絡をいただかずに、自動的に引き上げをすることはございませんので、大変お手数ですが、日本事務所までご意向をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

## 日本事務所よりごあいさつ！

皆様のお祈りに支えられて、参加者全員元気にケニア視察ツアーから戻ってまいりました。ありがとうございます。

ケニアは初めての現地ツアーでしたので、学んだこと、お知らせしたいことがたくさんあります。次号から、参加された方々のご感想と共にお伝えしてまいりますので、どうぞご期待ください。

また、10月31日からのアメリカツアーの参加ご希望の方は、まだ間に合いますので、すぐに日本事務所にご連絡ください。現地に行って活動を目の当たりにして初めてわかることがたくさんあります。また、ご支援いただいている子どもが実際にどのような生活をしているのか実感できますし、何よりも、子どもに直接会うことができます。

この秋の日々が、主の恵みに満ちたものとなりますようお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



# メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座 4-5-1

教文館 6 階 TFC 内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン